

校長室より

「天空高き」



第75号



平成27年9月15日

第68回運動会—協働して新たな価値を見いだす—

例年より早く秋雨前線が日本列島にかかり、さわやかな秋風とともに、長雨をもたらし、運動会当日の天候が危ぶまれました。しかし、幸運なことに予定通り第68回運動会を開催することができました。

昨年から大幅にグランドやテントの位置が変わり、保護者の方々が観覧されやすいようになりました。ちょっとしたことですが、それが、皆さんのパフォーマンスに大きな影響を与えたように思います。

皆さんの披露してくれた団体種目や演技内容に対する真剣さや一生懸命さそして生き生きと仲間と楽しむ様は、当日来場されたご来賓や保護者の方々の心に清々しさや温かさを届けてくれました。

本校の伝統種目である大行進では、皆さんのザッ、ザッという力強い足音が私の耳元に残り、中学生による応援合戦は、紅白共に一糸乱れぬ演技と若々しい創造性を見るものを圧倒し、閉会式で秋空に力強く響いた校歌は、私の心に今も感動と勇気と希望をもたらしてくれます。

また、各色テントでの皆さんの観覧マナーは、ご来賓や保護者の方々から、お褒めの言葉をいただきました。見る側の姿勢が、グラウンド内での競技や種目をより盛り上げてくれたのではないのでしょうか。

毎年の運動会で皆さんから、たくさんのプレ



ゼントを届けてもらっていますが、今年の運動会はさらに大きなプレゼントをもらいました。仲間と協働して味わえる喜びや楽しさは、皆さんにとって今でしか得ることのできない、貴重な一生の宝物になるでしょう。

長唄三味線部発表会 **一^{ふる}故きを^{たず}温ね新しきを知る**—

恒例の長唄三味線部の発表会が、8月30日（日）にシンフォニア岩国で開催されました。

今回で13回目になりますが、本校の関係者ばかりでなく、一般の方々もたくさん来場されていました。長唄三味線部の長年の地道な活動の成果だと思います。ますます古典芸能が地域の文化として定着してくれることを願っています。

今回は5曲演奏されましたが、それらの歌詞からは、日本折々の豊かな四季の移り変わりや美しい自然美、そしてそれらに対する日本人の繊細な感受性が伝わってきました。また、開演や曲と曲の合間の「鳴物」も観客を大いに楽しませてくれました。

今、かつての日本の自然美が失われつつあります。それとともに、昔ながらの日本人の心も喪失しているように思います。今日の発表会では、日本の伝統芸能の一端に触れることができました。また、緞帳（幕）が下りるまで舞台演者が身動きせず頭を垂れていました。日本人の礼法の心得もみせてもらいました。

楽学祭でも長唄三味線部の披露があります。是非皆さんも鑑賞してください。

今のあなたが出来ることを！ — what you can do now. —

今、毎日10分間ですが、NHKのラジオテキストを使って、英会話の勉強をしています。

英語の4技能、（聞く、話す、読む、書く）の中で、読む（reading）ことはある程度できますが、聞く（hearing）・話す（speaking）・書く（writing）が本当に苦手だからです。

このテキストでは、実際に英語を使う場面では、何を知っているか（what you know）よりも、何が出来るか（what you can do）のほうが重要視されています。ですから、私が長年英語を学習してきた、今使える単語、熟語や文法（知識と技能）をもとに、伝えたいことや言いたいことを英語で表現する、というのが基本です。たった10分間のラジオ英会話の時間ですが、私にとっては、悪戦苦闘の毎日ですが、楽しみでもあります。継続することで堅くなりつつあ

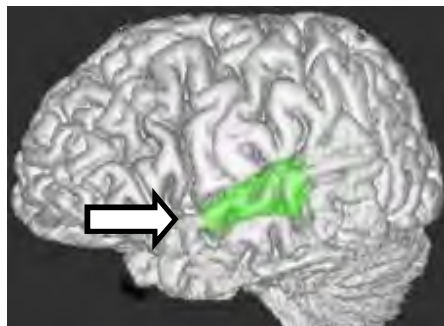


る脳に、新鮮な空気を送り続けたいと思います。

ちょっとためになる話 ー自分の脳は変えられる?ー

近年、音楽、言語、ゲーム、運動など、さまざまな領域において、その道のプロ、と呼ばれる人は、それらの能力をつかさどっている脳の一部の構造が発達している（灰白質の体積が大きくなっている）ことが、さまざまな研究から明らかになっています。

例えば、英語学習で脳がどのように変化するか、国際電気通信基礎技術研究所が、次のような実験しています。



英語が得意でない（TOEIC 平均200点前後）

〈左側頭葉の言語中枢〉

成人の日本人24人に、4ヶ月間英語を勉強してもらいました。その結果、24人全員の英語力(TOIC)が30%向上したと同時に、脳の右前頭葉の一部の体積が5%ほど大きくなり、さらに脳の神経間の連絡部分も強化されていました。その後2人を除いて、22人には英語の勉強を止めました。1年後に24人の脳を再度調べると、学習を止めた22人は、TOEICの成績が元に戻ったと同時に、脳の発達具合も学習の前の状態に戻っていました。

この実験から、学習を続けることにより、脳の神経回路が強化されるということが明らかになったと同時に、学習を怠ると、一度強化された脳の機能が失われてしまうということも、明らかになりました。

この研究から、私達は、若い年代だけではなく、成人になっていても、頑張っ勉強をすることで、自分の脳を変えることができる、ということが分かります。

「継続は力なり」という諺がありますが、この研究はまさにその言葉を裏付ける証拠になります。何歳になっても継続することで、私達の脳をより活発に鍛えることができるのです。

二十四節気 秋分 9月23日頃「秋分の日」で、「彼岸の中日」。「国民の祝日」です。

この日、真東から昇った太陽は真西に沈み、昼と夜の時間がほぼ等しくなります。北半球ではこの日を境に、次第に昼が短く、夜が長くなります。この日をはさんだ前後7日間が「秋の彼岸」です。

「暑さ寒さも彼岸まで」と言われ、この日を境に寒さが増してくるとされます。「彼岸」は、「現世を離れ極楽浄土の岸に到る」という意味の仏教の言葉で、墓前に花や線香を手向け先祖を供養する姿が見られます。半月ほど前に「立秋」を迎えましたが、まだまだ暑さが残っていました。しかし、それもようやくおさまり、吹く風にも涼しさが加わってきたようです。

【出典: ちょっと便利帳】

□頭を○くする - 3Dプリンター -

3Dプリンタは、立体データをもとに、空間に樹脂などを何層にも積み重ね、立体造形物を作る装置です。

皆さんが、今使っているコピー機（2Dプリンタ）は紙データを印刷しています。紙は平面ですから、2次元の世界を再現しています。

では、コンピュータで作ったデータを実際に印刷できる装置である3Dプリンタの原理はどうなっていると思いますか。

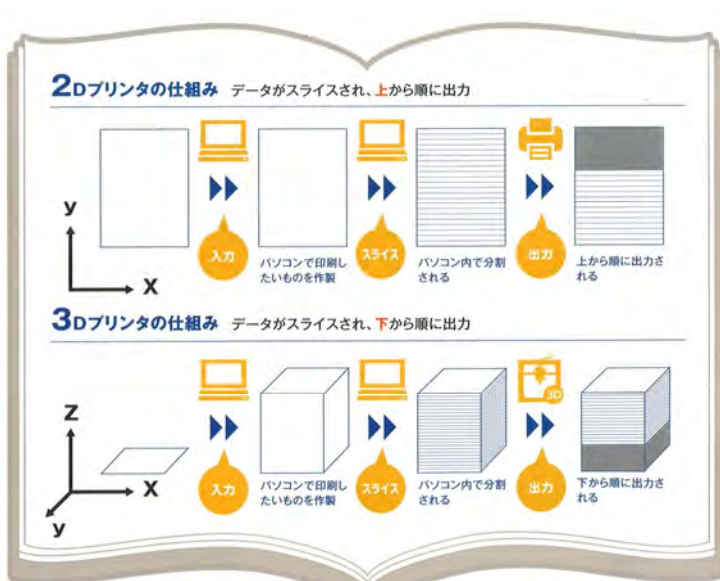
その原理は案外シンプルです。

（リバネス 教育応援 vol27より）

普通のインジェットプリンタ（2Dプリンタ）で紙に印刷するとき、平面の画像データを一番上から細く千切りにして、上の行から順番にインクを紙に乗せていきます。（上図）それと同様に3D画像については、立体をスライスした輪切りのデータ（2Dのスライスデータ）を、下から一段ずつ重ねて立体を作っていきます。材料（樹脂、金属、石膏など）や造形方法（熱、紫外線、レーザーなど）はさまざまな種類がありますが、仕組みはどの3Dプリンタも同様です。

最近家庭や学校で利用され始めた3DプリンタはFDM（熱溶解積層方式）といって、プラスチック樹脂を溶かして、少しずつソフトクリームのように積み重ねて造形しています。

3Dプリンタの最大のメリットは、「アイデアを形にすること」がこれまでよりもはるかに簡単にできるようになることです。3Dプリンタは、航空宇宙産業、自動車製造、医療用製品、人が身につけるあらゆる商品など、さまざまな分野ですでに導入され始めています。世界では、教育の現場でも導入され始めています。皆さんの豊かな発想やアイデアが3Dプリンタによって形になることが、新しいものを生み出す力になると、期待されるからでしょう。



「健康とは、自分の体の中にあるものでなく、意志の力で体の中に創り上げてゆくものだ